

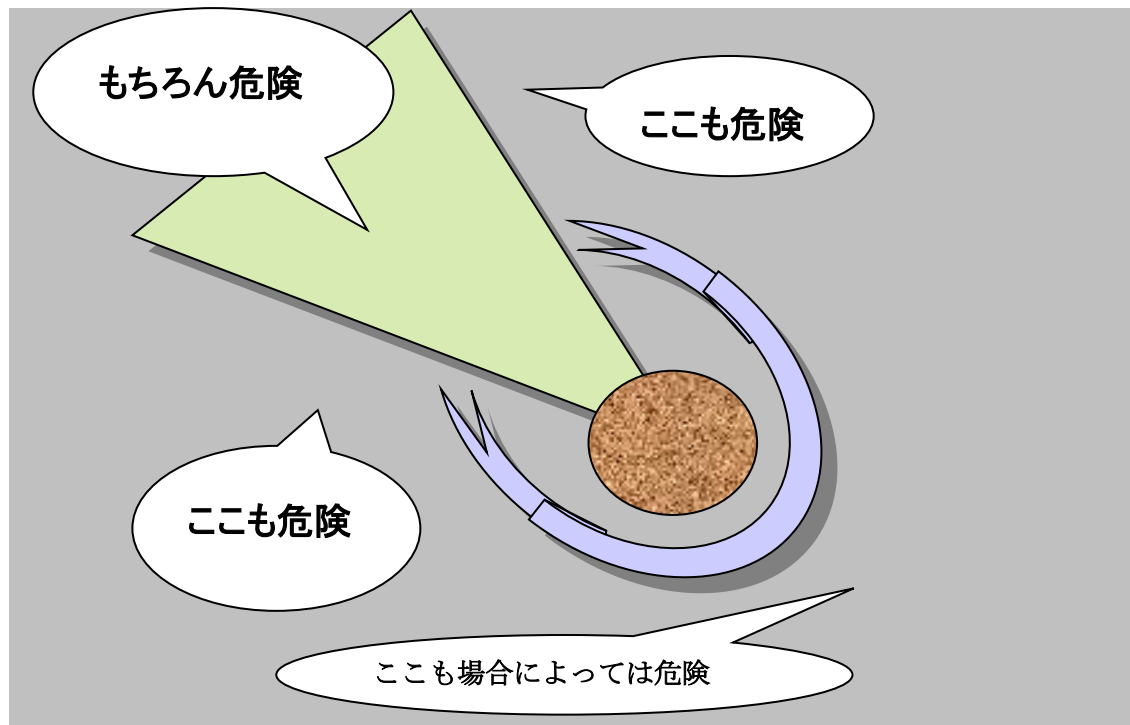
投てき競技の注意点

東京高体連陸上競技部強化委員会 投擲ブロック

先日、残念ながら学校内での投擲練習中に投擲物が頭部に当たるといふ重大事故が発生いたしました。

関係者の方々には心からお見舞い申し上げます。

さて、投擲競技を実施する際（試合や練習など）の注意点をお示しいたします。選手、監督、顧問、審判等の方々におかれましては、今一度確認のうえ、事故防止に留意していただきますようお願い申し上げます。



**砲丸
いきます**



1、投てき場所・・十分な広さのグラウンドで他の者が入りこまない対策をとること（コーンで区切るなど）。

回転競技では一定方向以外に飛び出さないネット等が敷設させていることが原則。

2、かけ声・・**投げる前に「いきます」と投げる方向を見て大声で声かけする。**

その際、投げる方向に人がいないことを確認する。人がいる場合は投げない。

投げる場合はその人たちに「いきます」。投げる方向にいる人の返事「はい」をうけてから投げる。

後ろを向きながら「いきます」は、「いきます」と言っても相手から確認の「はい」がないので危険。

3、その他・・

- ・他の人とペアになって相対しての投てきはしない（相手に向かって投げない）。特にやり投げ。
- ・強風や雨天時の投てきは投てき物が流れたり変化したりするので危険であり十分に注意が必要である。
- ・投てき角度内以外にいる場合も危険（図参照）。思いもよらぬ方向へ飛ぶ場合がある。
- ・投擲用の防護ネットがある場合も必ず安全とはいえない。防護ネットの隙間から飛び出すことがある。

あらゆる可能性を考えておき、投てき者から目を離さない。

4、試合における投てき審判や補助員について

- ・投擲場に入る必要があり、危険である。
- ・最小限の審判のみ投てき方向に入るようにする。角度内には最小限の着地審判のみが望ましい。
- ・補助員等は経験の少ないものが多いので、十分な指導を行い安全確保を徹底する。
- ・「投擲角度内に入らなければ安全である」とはいえない。絶えず投てき者を見ておく必要がある。
- ・芝生内は危険地帯であり、決して油断しない。複数の目で確認し、声を掛け合う。

*危険な場面がおきないように十分に注意して、有意義な練習や試合とするようにしましょう。